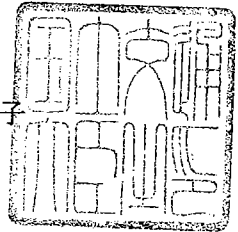


認定書

国住指第 7899 号
平成 14 年 12 月 25 日

積水化学工業株式会社
代表取締役 大久保 尚武 様

国土交通大臣 林 寛子



下記の構造方法又は建築材料については、建築基準法第 68 条の 26 第 1 項（同法第 88 条第 1 項において準用する場合を含む。）の規定に基づき、同法施行令第 129 条の 2 の 5 第 1 項第七号ハ[防火区画貫通部 1 時間遮炎性能]の規定に適合するものであることを認める。

記

1. 認定番号
PS060WL-0065
2. 認定をした構造方法又は建築材料の名称
給・排水管/モルタル・アルミニウムはく積層紙・黒鉛含有ブチルゴムシート
充てん/壁耐火構造/貫通部分（中空壁を除く）
3. 認定をした構造方法又は建築材料の内容
別添の通り

(別添)

1. 構造名

給・排水管／モルタル・アルミニウムはく積層紙・黒鉛含有ブチルゴムシート充てん／壁耐火構造／貫通部分（中空壁を除く）

2. 寸法及び形状等

(寸法単位：mm)

項目	申請構造
開口部	(面積) 0.005m ² 以下 (φ0.08m以下) (形状) 円形
占積率 (開口面積に対する給・排水管断面積の総合計の割合)	さや管 (架橋ポリエチレン管) 27.6% 以下 さや管 (ポリブテン管) 27.6% 以下 被覆付架橋ポリエチレン管 15.0% 以下 架橋ポリエチレン管 18.1% 以下 ポリブテン管 27.6% 以下 金属強化ポリエチレン管 9.77% 以下
貫通する壁の構造等	ALCパネル 厚さ 75以上 コンクリート 厚さ 75以上

(別添-1)

3. 材料構成

(寸法単位：mm)

項目		申請構造		
給 ・ 排 水 管	さ	外径	23.0~42.0	
		内径	17.0~36.0	
	や	規格	JIS K 6769, JIS K 6787	
		架橋ポリエチレン管	外径	8.0~34.0
	管	内径	4.8~26.0	
		規格	JIS K 6778, JIS K 6792	
	ポリブテン管	外径	11.0~34.0	
		内径	7.6~28.1	
	被覆付架橋ポリエチレン管	規格*	JIS K 6769, JIS K 6787	
		被覆フィルム	エラストマー樹脂	
		外径	17.0~31.0	
	架橋ポリエチレン管	内径	9.8~20.5	
		規格	JIS K 6769, JIS K 6787	
	架橋ポリエチレン管	外径	8.0~34.0	
内径		4.8~26.0		
ポリブテン管	規格	JIS K 6778, JIS K 6792		
	外径	11.0~42.0		
金属強化ポリエチレン管	内径	7.6~34.9		
	外径	14.0~25.0		
金属強化ポリエチレン管	内径	10.1~19.6		
	膨張材 (以下、熱膨張性シート という)			
防火措置材料	充てん材	材質	モルタル	
		厚さ	75以上	

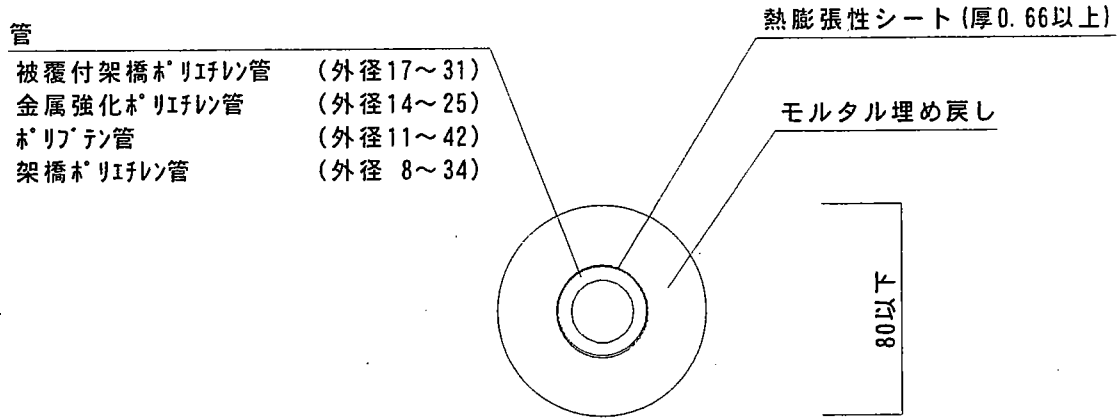
*：被覆を除く素管の規格を示す。

4. 構造説明図

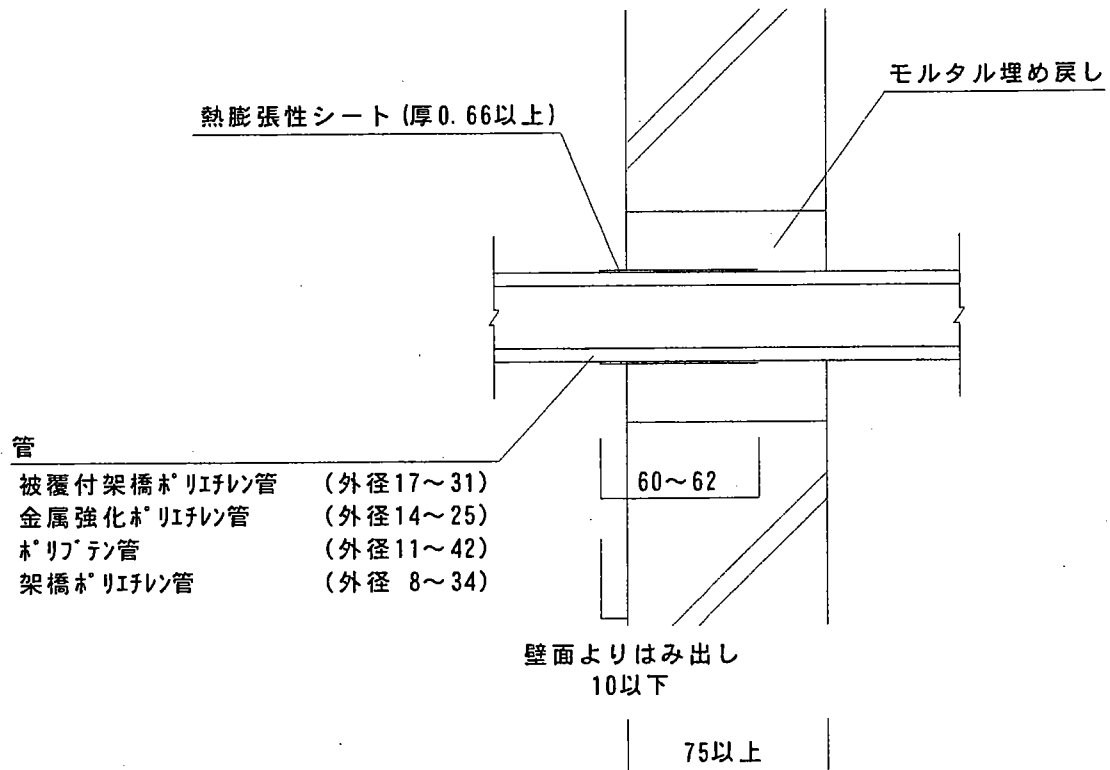
A. さや管付以外の場合

(寸法単位：mm)

・正面図



・断面図

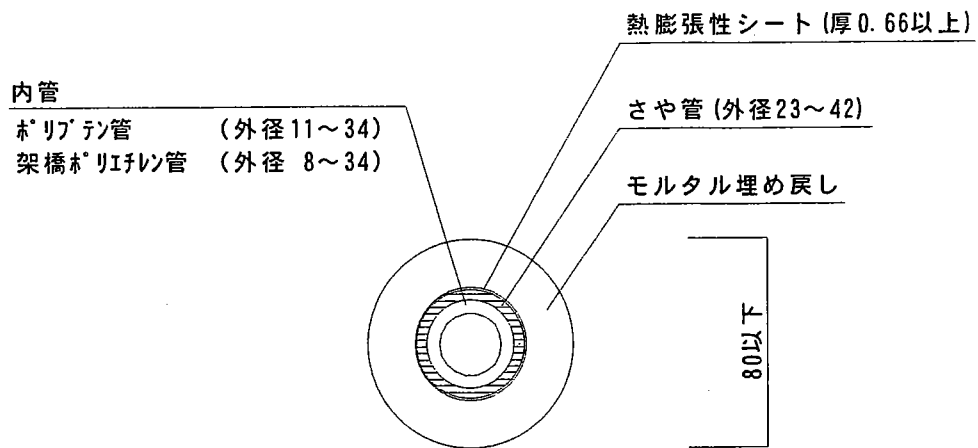


注) 寸法は3のとおり

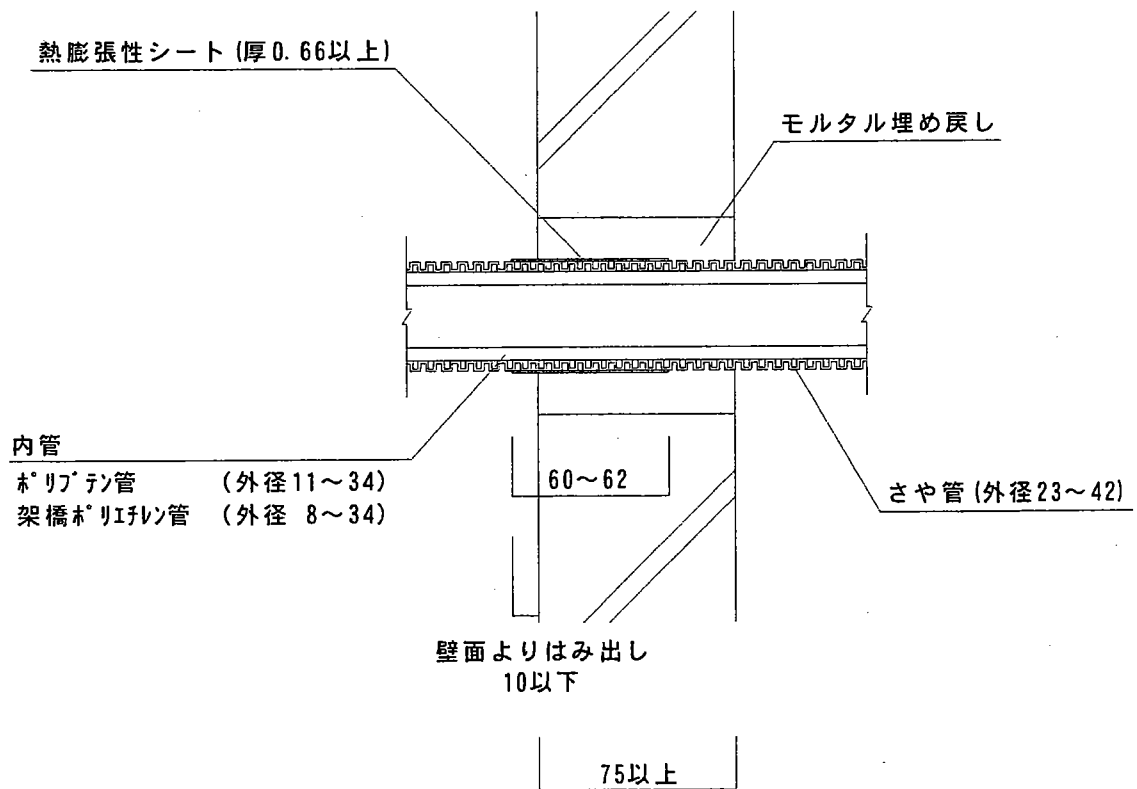
B. さや管付の場合

(寸法単位：mm)

・正面図



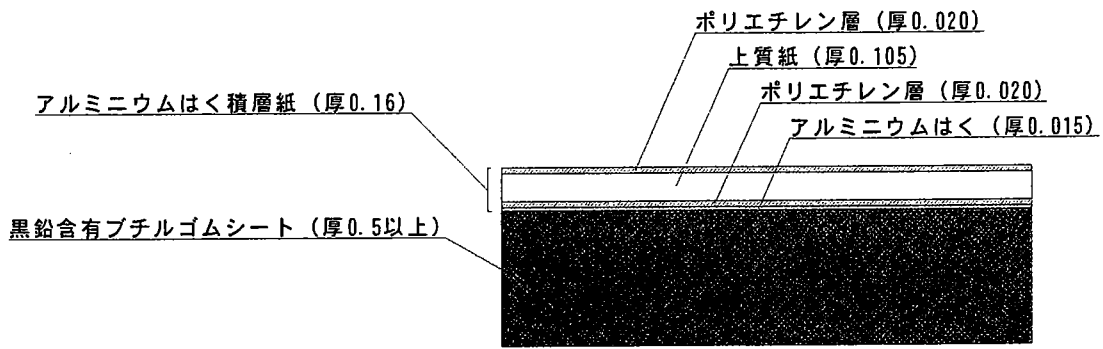
・断面図



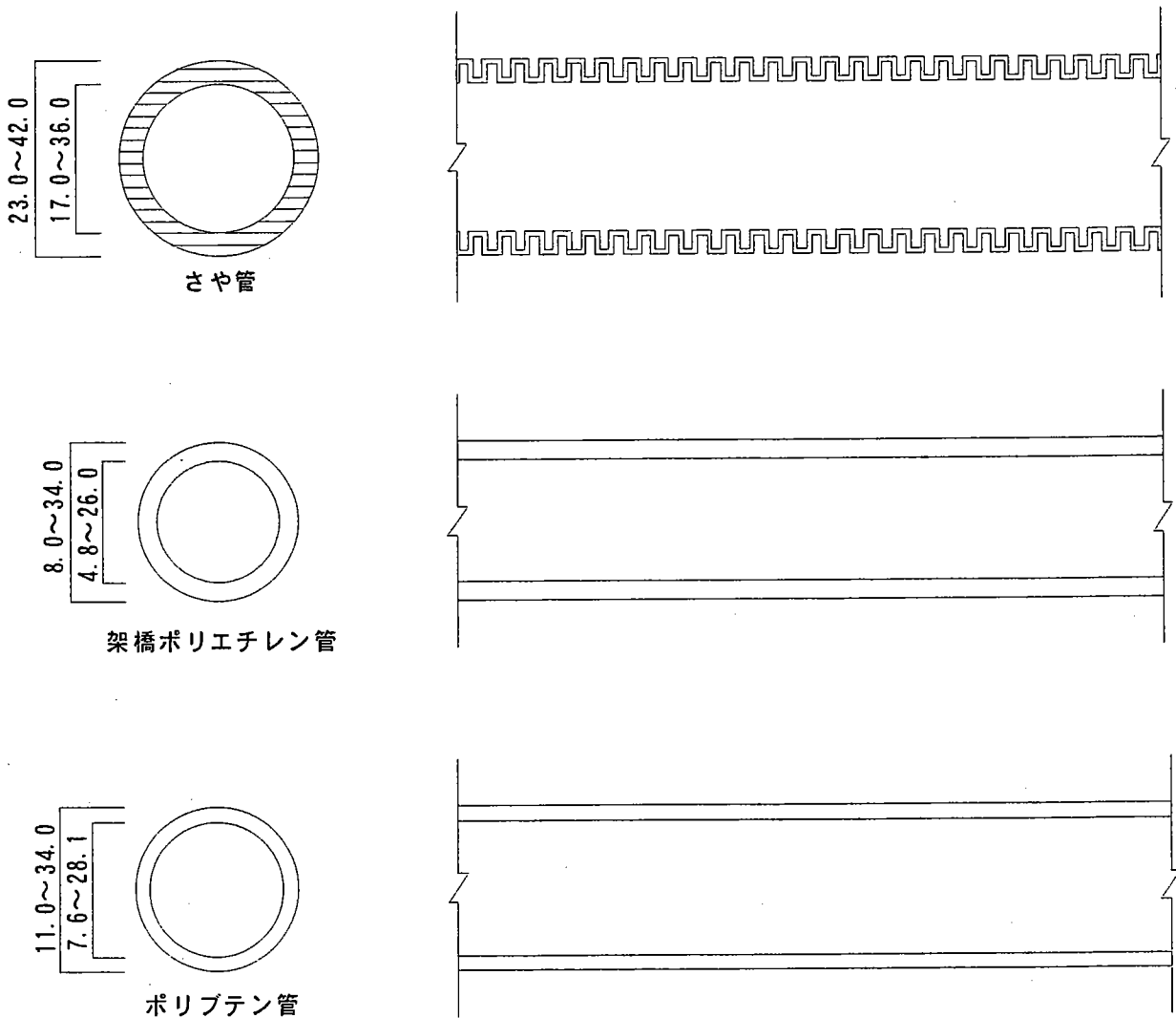
注) 寸法は3のとおり

(寸法単位：mm)

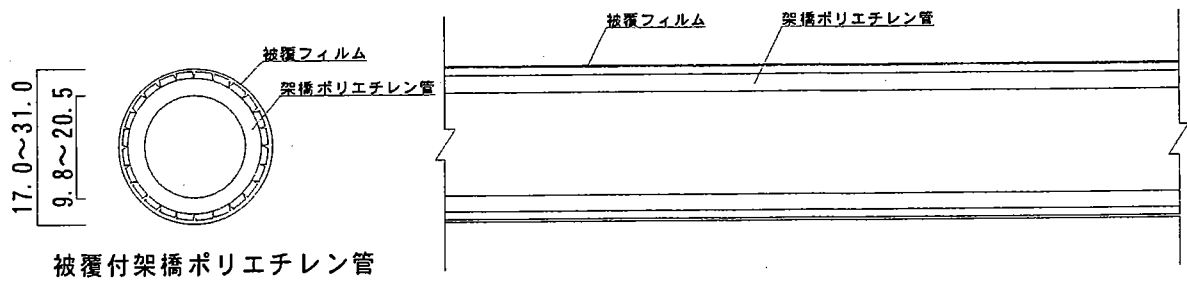
熱膨張性シート図



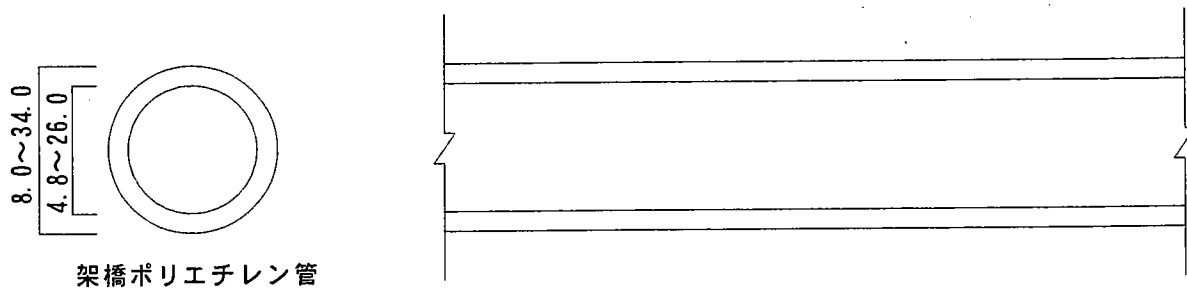
管 断面図



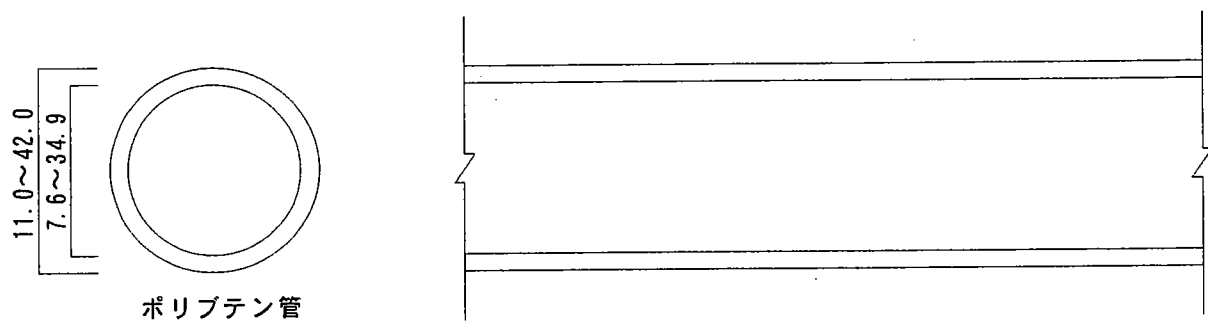
注) 寸法は3のとおり



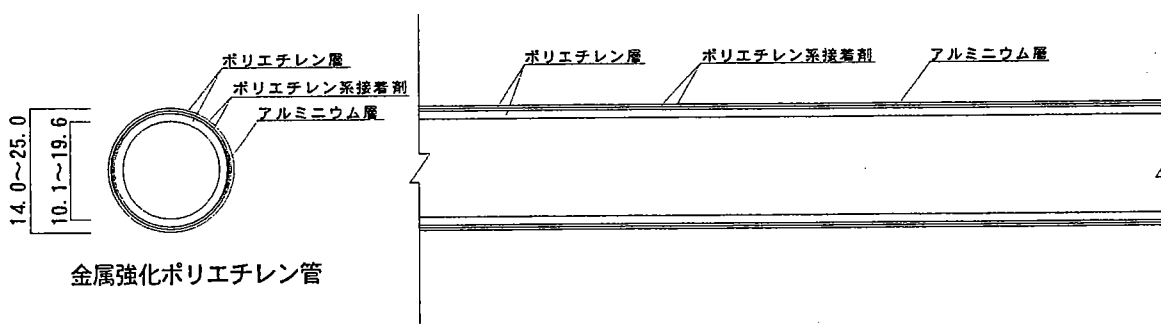
被覆付架橋ポリエチレン管



架橋ポリエチレン管



ポリブテン管



金属強化ポリエチレン管

注) 寸法は3のとおり

5. 施工方法等

(施工手順)

A. さや管付以外の場合

(1) 事前準備

(1)-1 開口部の設置

管が区画貫通する位置に予め開口部を設置する(開口径φ80mm以下)。

(2) 区画貫通処置

(2)-1 配管前の場合

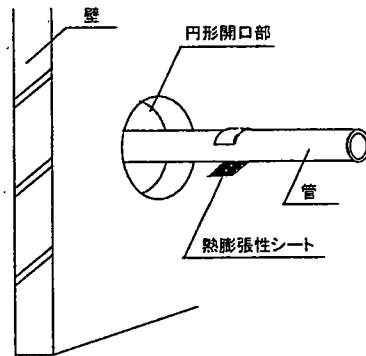
①熱膨張性シート巻き付け位置の設定

熱膨張性シートを巻き付ける位置に墨出しをする。

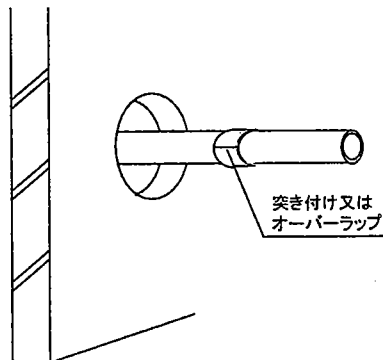
墨の位置は巻き付けた熱膨張性シートが確認できる程度(壁面より10mm以下)の位置となるようにする。

②熱膨張性シートの巻き付け

上記墨出しした位置に従い、熱膨張性シートを巻き付ける。熱膨張性シートは巻物のまま直接管に巻き付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻き付けてもよい。

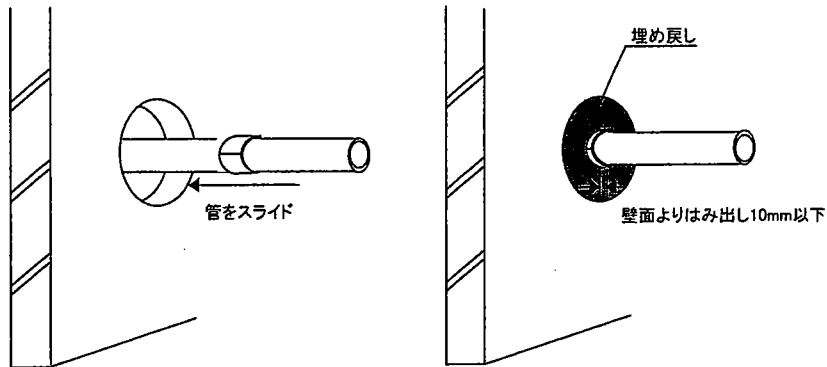


また、熱膨張性シート巻き付けの初端と終端は隙間なく必ず接するように巻き付ける(オーバーラップ可)。



③開口部の埋め戻し

管をスライドさせ、所定の位置に設置し、開口部に当て板をあて、モルタルで埋め戻すか、当て板をあてない場合は、それぞれの側よりモルタルを埋め戻しする。



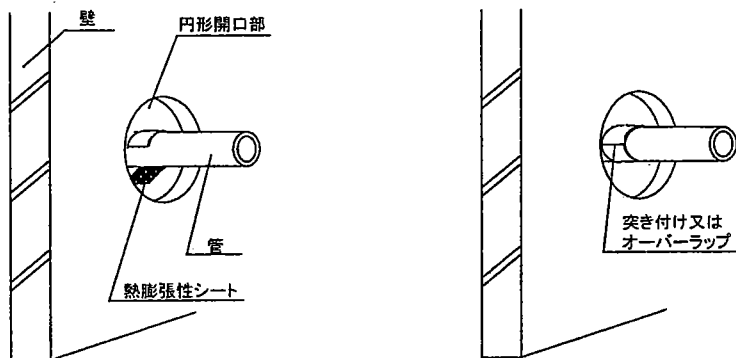
(2)-2 配管後の場合

①熱膨張性シート巻き付け位置の設定

壁面より10mmの位置に墨出しをする。

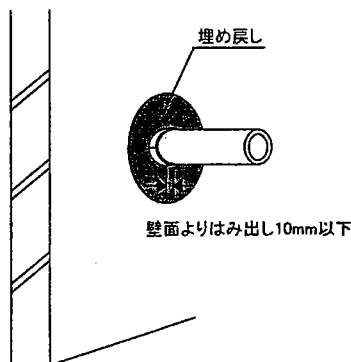
②熱膨張性シートの巻き付け

上記墨出しした位置に従い、熱膨張性シートを巻き付ける。熱膨張性シートは巻物のまま直接管に巻き付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻き付けてもよい。また、熱膨張性シート巻き付けの初端と終端は隙間なく必ず接するように巻き付ける(オーバーラップ可)



③開口部の埋め戻し

開口部に当て板をあて、モルタルで埋め戻すか、当て板をあてない場合は、それぞれの側よりモルタルを埋め戻しする。



B. さや管付の場合

(1) 事前準備

(1)-1 開口部の設置

管が区画貫通する位置に予め開口部を設置する(開口径φ80mm以下)。

(2) 区画貫通処置

(2)-1 配管前の場合

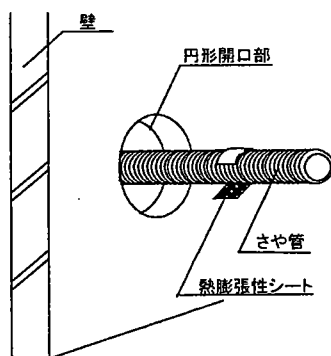
①熱膨張性シート巻き付け位置の設定

熱膨張性シートを巻き付ける位置に墨出しをする。

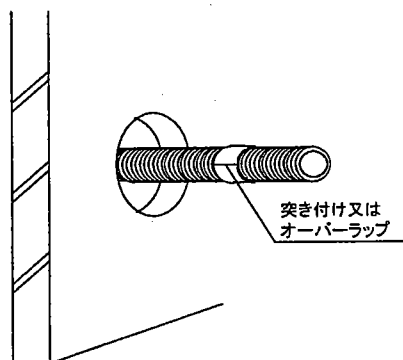
墨の位置は巻き付けた熱膨張性シートが確認できる程度(壁面より10mm以下)の位置となるようにする。

②熱膨張性シートの巻き付け

上記墨出しした位置に従い、熱膨張性シートを巻き付ける。熱膨張性シートは巻物のまま直接管に巻き付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻き付けてもよい。

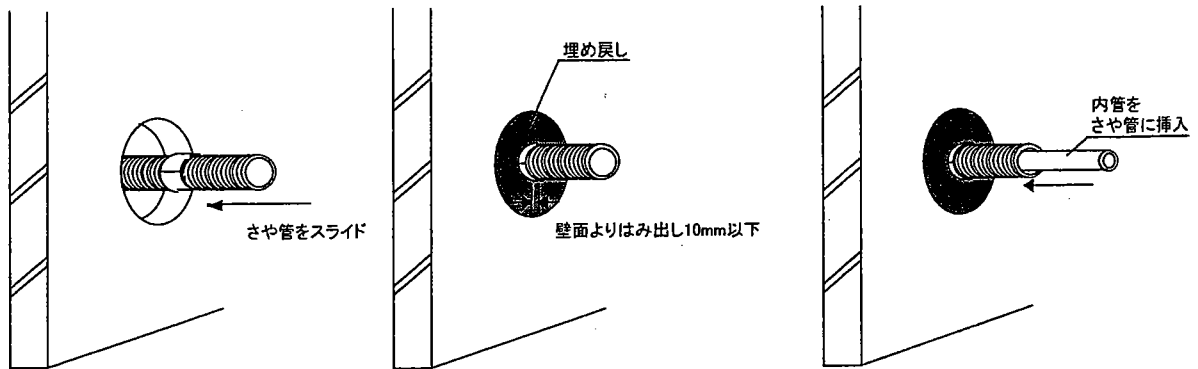


また、熱膨張性シート巻き付けの初端と終端は隙間なく必ず接するように巻き付ける(オーバーラップ可)。



③開口部の埋め戻し

管をスライドさせ、所定の位置に設置し、開口部に当て板をあて、モルタルで埋め戻すか、当て板をあてない場合は、それぞれの側よりモルタルを埋め戻しする。



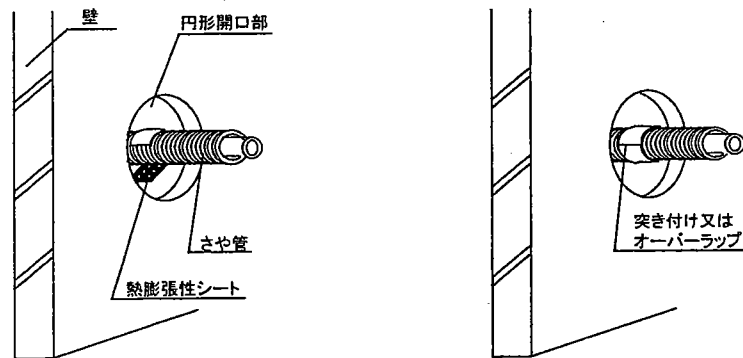
(2)-2 配管後の場合

①熱膨張性シート巻き付け位置の設定

壁面より10mmの位置に墨出しをする。

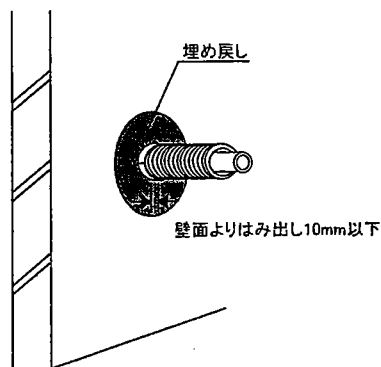
②熱膨張性シートの巻き付け

上記墨出しした位置に従い、熱膨張性シートを巻き付ける。熱膨張性シートは巻物のまま直接管に巻き付けてもよいし、所定の長さに予め裁断したものを巻き付けてもよい。また、熱膨張性シート巻き付けの初端と終端は隙間なく必ず接するように巻き付ける(オーバーラップ可)



③開口部の埋め戻し

開口部に当て板をあて、モルタルで埋め戻すか、当て板をあてない場合は、それぞれの側よりモルタルを埋め戻しする。

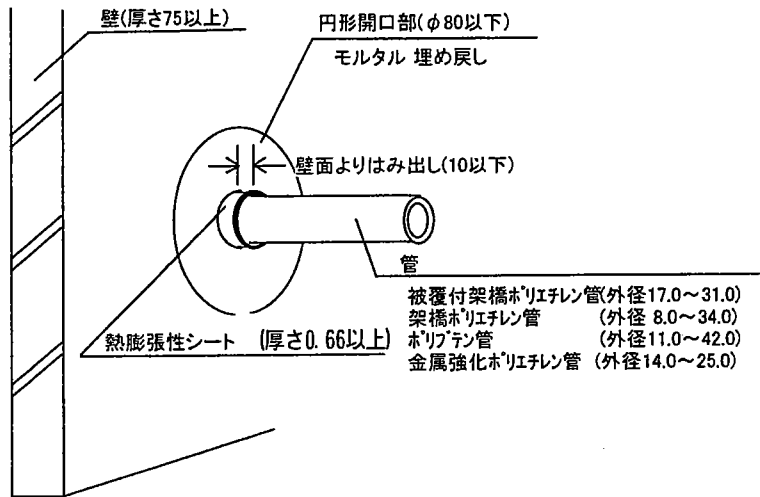


〈施工図〉

(寸法単位：mm)

・斜視図

A. さや管付以外の場合



B. さや管付の場合

